

石鳥谷
好地まちづくり委員会

「よ市」復活で “まち”が元気に

■ 地区の概要 11行政区、人口5,472人、世帯数2,016戸

■もう一度「よ市」を!

好地地区のコミュニティ会議である「まちづくり委員会」では、平成19年度に「地域活性化のためのアンケート」を実施。すると、「商店街が寂しいね」「よ市」がなくなって寂しい」という声が多かったので、委員会はそれを中央通商店街に伝えました。

商店街では、「どうしたら商店街に賑わいを取り戻せるか」を自分たちだけで話し合っていた時には、「よ市」復活のようなアイデアは出なかったの、新鮮な驚きを感じ、自分たちが中心となって復活に取り組むことにしました。

そこで、まちづくり委員会は「イベントの在り方講習会」を実施。そこに参加した人々には、「やるからには良いものを…」という気持ちが生まれ、従来の出店のほか、農産物直売と映画会も加わった中身の濃い「よ市」を10年振りに復活させ、成功を収めました。

■「地域が好き、このまちが好き」

まちづくり委員会は、この成功を今後の活動に活かし、住民によるまちづくりをサポートしようと、「よ市」終了後に商店街活性化講習会を実施。これには商店街の人たちだけではなく、女性を含む地域の人たちが参加し、「イベントは計画・実行・検証が大切」だということを学ぶことができました。

「よ市」の復活を通じて、中央通商店街と好



産業振興部会長 柳原利浩さんと 前産業振興部会長 中村弘樹さん

地地区住民はとても大きな成果を得ました。ひとつは、地元商工会議所青年部や地域の祭りメンバーのほか、農産物の出店で農業者も加わり、職業や年齢、性別を越えて地域の輪が広がったこと。もうひとつは、様々な年代の繋がりができ、若い人たちが「地域が好き、このまちが好き」と照れずに言えるようになったことです。

KOCHI

まちづくりを楽しむ

～自分たちのまちを自分たちの手で!～

花巻市では平成19年度に、まちづくりの中心となる「コミュニティ会議」が各地域で組織されました。これは、女性も男性も力を合わせ「自分たちの手で暮らしやすい地域をつくって行こう」というもので、わたしたち一人ひとりが、これまで以上に積極的に「まちづくり」に関わることができるようになっています。

今号のWeでは、自分たちの手で魅力的なまちづくりに挑戦している4つのコミュニティ会議の活動をレポートしました。

KANAN

TOWATOBU



会長 小原守さん

花巻
花南地区コミュニティ会議

一人ひとりの思いが 活きるまちづくりを

基本計画

■ 地区の概要 10行政区、人口8,608人、世帯数3,309戸

■基本計画に男女共同参画を

花南地区コミュニティ会議では、まず、住民の願いを生かしたまちづくりのために、全世帯を対象に、年齢や性別に配慮してアンケートを実施。他の地域との違いは、男女共同参画についての項目があったことです。「男女共同参画は市が目標としていることですよ。それに地域も取り組まなければ実現しませんよね」と、小原さん。調査結果は、住民や専門委員によるワークショップを経て「花南

地区まちづくり基本計画」に反映され、基本施策の一つに「男女共同参画の推進」も盛り込まれました。

■意欲のある人を役員に!

この計画を具体的な形にする取り組みはすでに始まっています。専門委員に係わる規約を改正し、まちづくりへの参画意欲や関心のある人は女性でも男性でも専門委員になれるよう、公募や推薦を取り入れたこともその一つ。「まだ女性の参画は増えてい

ませんが、やってみませんか、と声をかけやすくなりました」とのこと。

「コミュニティ会議をよく知ってもらうために“コミュニティだより”に力を入れています。ぜひ読んでほしいですね。また、地域のイベント等にはまず参加してみたいです。それが地域への理解となり、良いまちづくりに繋がっていくと思っています。」会長の小原さんはこう呼びかけています。

大迫
外川目地区コミュニティ会議

女性たちの声の実らせた 「梅の里づくり」

■ 地区の概要 4行政区、人口939人、世帯数249戸

※会長の浅沼利一郎さんのお話

■「うちの目玉は梅だ!」

外川目地区コミュニティ会議では、発足はしたもののコミュニティのコの字もわからないという状態でした。

そこで、先進地を視察することにし、参加者を募ったところ40名にもなり、私は「こんなに

関心が高ければやれるかもしれない…」と思いました。

視察後、コミュニティ会議の事業で重要なことは「目玉づくり」だと考えました。そして、花が咲き、実もなり、背が低く、高齢者でも収穫できる梅がいいのではないかと思いつき、平成20年度の総会で「梅の里づくり」を提案しました。

■「やってみもしねで!」

総会では「そんななこと、わがねんだ〜」「無理だ…」と反対意見が多く出ました。「そうやって、今まで挑戦してこねがったが、今の大迫じゃねのが」と私が話したとき、瀬川アツ子さんをはじめとする数人の女性たちから「賛成だ」「やってみもしねでダメだと言うの

東和
東和東部地区コミュニティ会議

若者も楽しめる 地域づくり

■ 地区の概要 5行政区、人口2,337人、世帯数753戸

いさご

■「砂子大サーカス団」の若者たち

西和賀町で開かれた「09年北日本雪合戦大会」で、ベスト8に輝いた花巻のチームをご存じですか?実は、東和東部地区コミュニティ会議の「若者交流支援事業」の成果なのです。

平成20年度、「少子化」「婿嫁」対策への要望があがったものの、コミュニティ会議では、いい案がうかばなかったといいます。そこで役員が声をかけたのが「砂子大サーカス団」の若者たちでした。この不思議な名前の団体は、元は砂子地区の消防団員の集まり。でも

「消防団=青年部だと男性しか来ない。女性も子供も一緒に、皆が集まればワクワクできる」と、この名前をつけたそうです。これまで盆踊りの復活や、沿岸・山田町との交流など、男女20人ほどが地域を盛り上げてきました。

■初出場で大会ベスト8に!

「砂子大サーカス団」では、経験者がいたので雪合戦大会への出場を提案。コミュニティ会議で地域に声をかけ「晴谷MAX」チームを新たに結成し、手作りの紙玉やシェルターを使って、2チームで猛特訓の日々。そして、いざ大会へ。見事、「砂子大サーカス団」チームが



瀬川アツ子さんと浅沼利一郎さん

はおがし!」という意見が次々と出ました。それを聞いて反対していた人たちが「そなたに言うんだ、やってみるが」と賛成して、「梅の里づくり」事業がスタートしました。

■梅のように“ま〜るい”地域に

将来的には梅の実を活用した農産加工を目指していますが、高齢者も作業でき、気楽に立ち寄れる作業所を作りたいと考えています。

私たちのコミュニティ会議ではいろんな意見が出て、おおいに議論する。そして全員が納得して決める。そのため、決まっからの不平不満は無いようです。皆で話し合って決めた「梅の里づくり」がきっかけとなり、地域の課題を皆で考え、信頼し助け合う、地域づくりが進んでいけばと思っています。



雪合戦に参加したみなさん

ベスト8に輝いたのです。

■夢は“フィンランド”へ

監督を務めたコミュニティ会議教育振興部長の金澤徹さんは、「楽しみながら若者交流を続けてもらい、参加者を増やしていきたいですね」とのこと。

「周りからの応援が嬉しかったです。もっといろんな人と話して、地域を良くしていきたいですね。この競技は北海道の全国大会、フィンランドの世界大会とあるので、上を目指して頑張ります」と、参加者の菅和美さんと小原基美さんは笑顔で話していました。

コミュニティ会議ーロメロ

コミュニティ会議は、市内27の地区ごとに特色あるまちづくりを進めるために組織された“住民の、住民による、住民のための”「自治活動組織」です。このため、組織構成や活動内容も様々で、各地域の特色を活かしたものとなっています。「振興センター」は行政機関として、この自治活動組織「コミュニティ会議」を支援しています。

